

建設技術公開「E E 東北'22」にて研究で開発した技術を出展

寒地技術推進室

寒地土木研究所では、外部主催の技術展示会等に研究開発した技術を出展し、その普及に努めています。今回、2022年6月1～2日に仙台市にて開催された建設技術公開「E E 東北'22」(会場：夢メッセみやぎ)に、「吹雪時の視程推定技術と情報提供(雪氷チーム)」及び「緩衝型のワイヤロープ式防護柵(寒地交通チーム)」等の技術を出展しましたので、その結果を報告します。

1. 建設技術公開「E E 東北」の概要

E E 東北実行委員会(委員長：東北地方整備局 企画部長)主催による本展は、建設事業に係る新技術等を公開しその普及を図ることにより、新たな技術開発の促進と良質な社会資本の整備を通じて、社会に寄与することを目的としており、今回で31回目の実施となります。過去最大となる358の出展者による1,040技術が集結され、2日間で12,200名が来場されました(写真-1)。

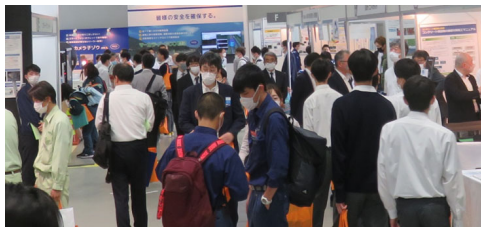


写真-1 E E 東北'22 (夢メッセみやぎ)

2. 展示した技術の紹介

2. 1 吹雪時の視程推定技術と情報提供

本技術は、気象庁から配信される降水強度と風速、気温、湿度の気象値を用い、当研究所で開発した視程推定手法により視程を予測する技術です。予測した視程情報はインターネットサイトを通じて情報提供を



写真-2 プレゼン発表の様子
(原田主任研究員)

行っています。今回はブースでの展示のほかプレゼンテーション発表にて、昨年度から運用を開始した「吹雪の視界情報(青森県試行版)」について情報提供の事例を紹介しました(写真-2)。ご来場の方からは、「是非、東北地方各地への展開も視野に入れてほしい」等のご意見を頂きました。

2. 2 緩衝型のワイヤロープ式防護柵

本技術は、高いじん性を有するワイヤロープと、比較的強度が弱い支柱により構成され、車両衝突時の衝撃に対して主にワイヤロープの引張りで抵抗する防護柵です。支柱が設置できる空間があれば、容易に設置が可能のため、狭い幅員の分離柵として使用することが有効と考えられます。ご来場の方からは、「高速道路の中央帯でよく見かけることがあり、安心して走行できるようになった」等のご意見を頂きました(写真-3)。

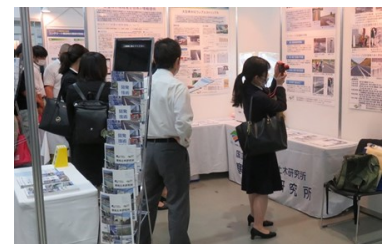


写真-3 展示ブースの様子

3. おわりに

寒地土木研究所では、開発した技術の普及を図ることで社会に貢献するとともに、引き続き、皆様からのご意見を参考にしつつ、国民生活に役立つ技術の開発を進めて参る所存です。

なお、本展で紹介した技術の他にも、弊所が開発した約50の技術をHPで紹介しています。以下のURLかQRコードからアクセスして頂けますと幸いです¹⁾。

最後に、本展の出展に多大なるご協力いただきました、主催者並びに関係者各位に感謝申し上げます。

1) 開発技術の紹介HP

<https://chouseikan.ceri.go.jp/suishin/gijutu.html>



(文責：高田 哲哉)